

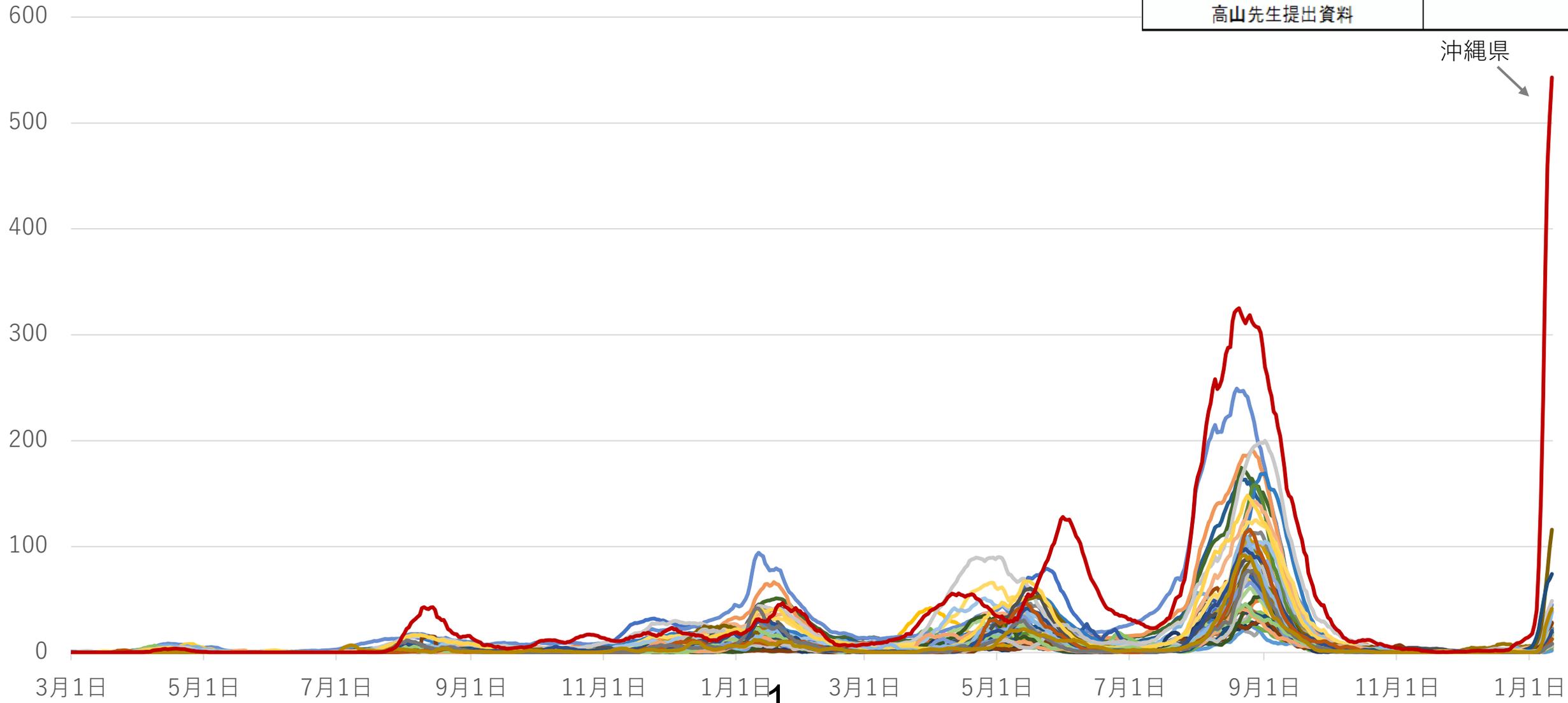
図1 都道府県別にみる新規陽性者数の推移

人口10万人あたり7日間合計

第67回(令和4年1月13日)
新型コロナウイルス感染症対策
アドバイザリーボード

資料3-6

高山先生提出資料



沖縄県

出典：NHK特設サイト「新型コロナウイルス」掲載の都道府県ごとの陽性者数をもとに作図

図2 性年齢階級別に見る陽性者数 (1月5日~11日)

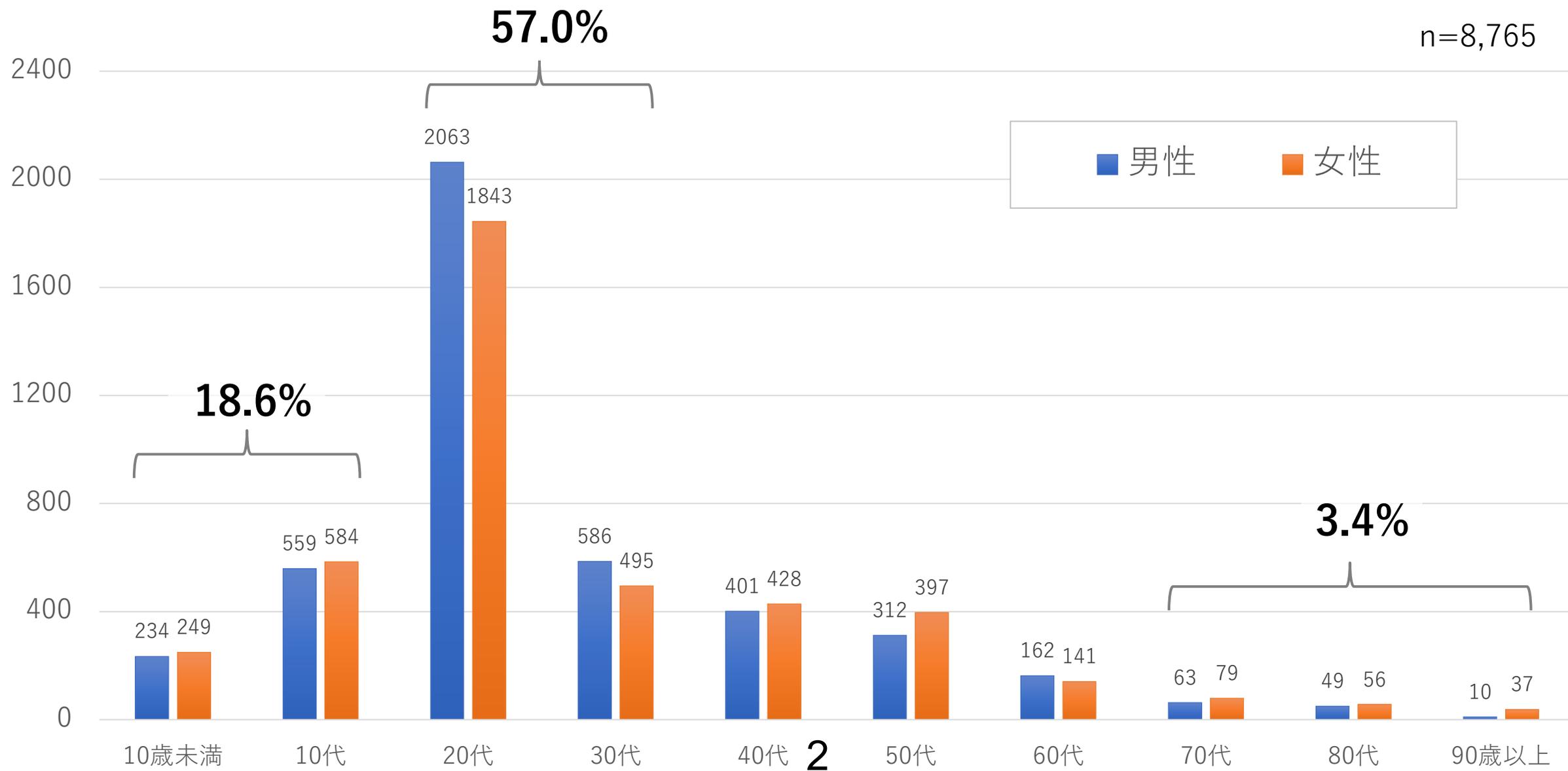


図3 全療養者の療養場所と重症度の推移（沖縄県）

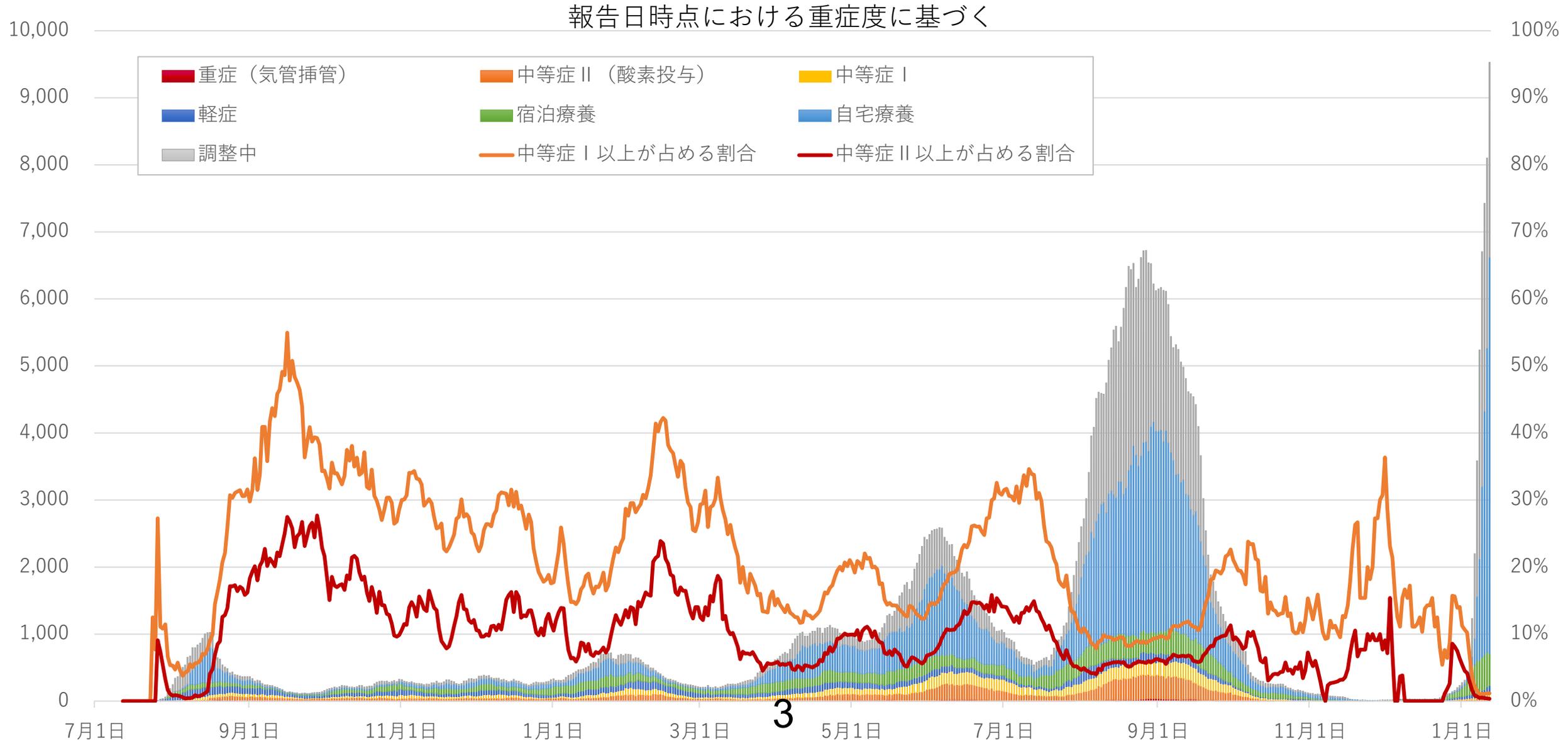
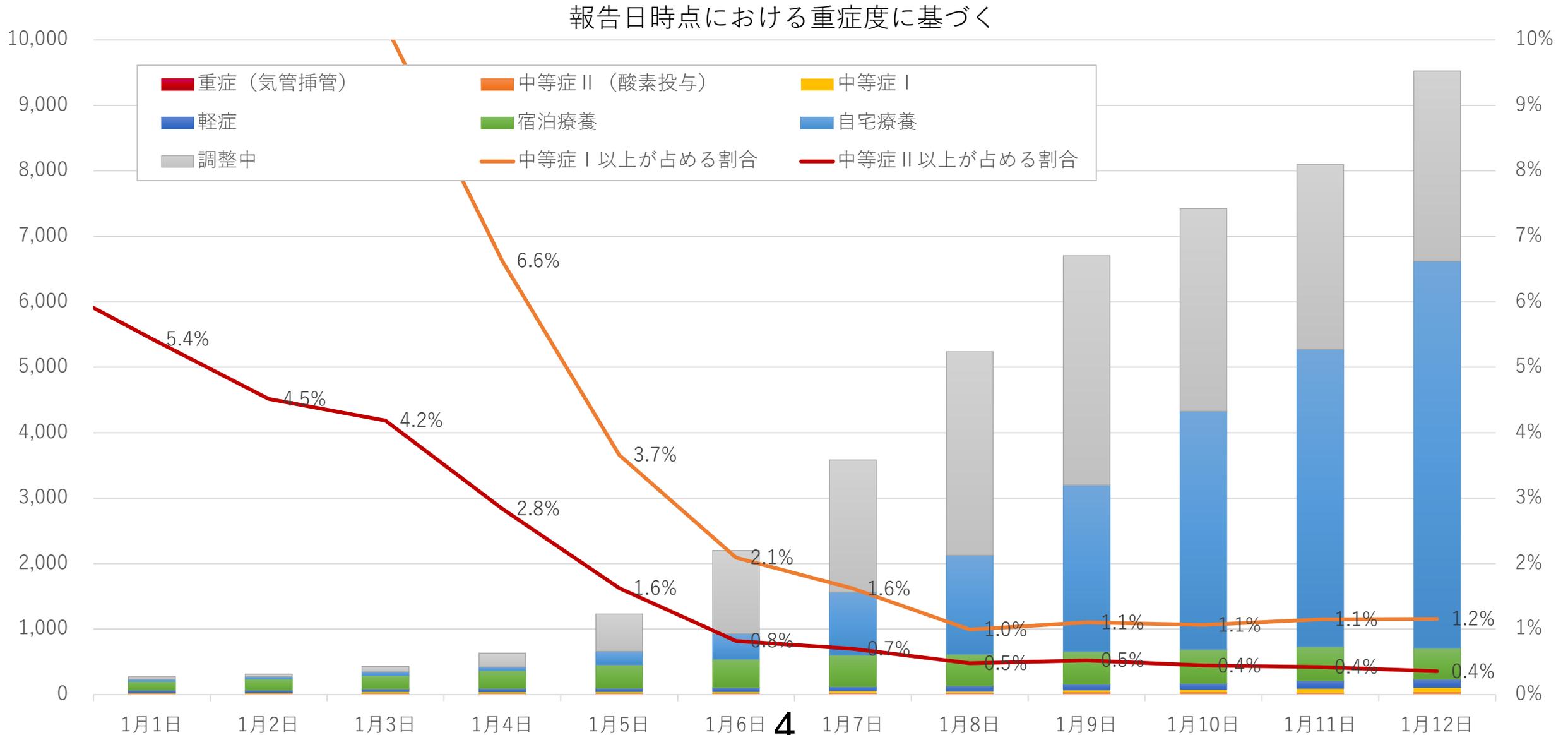


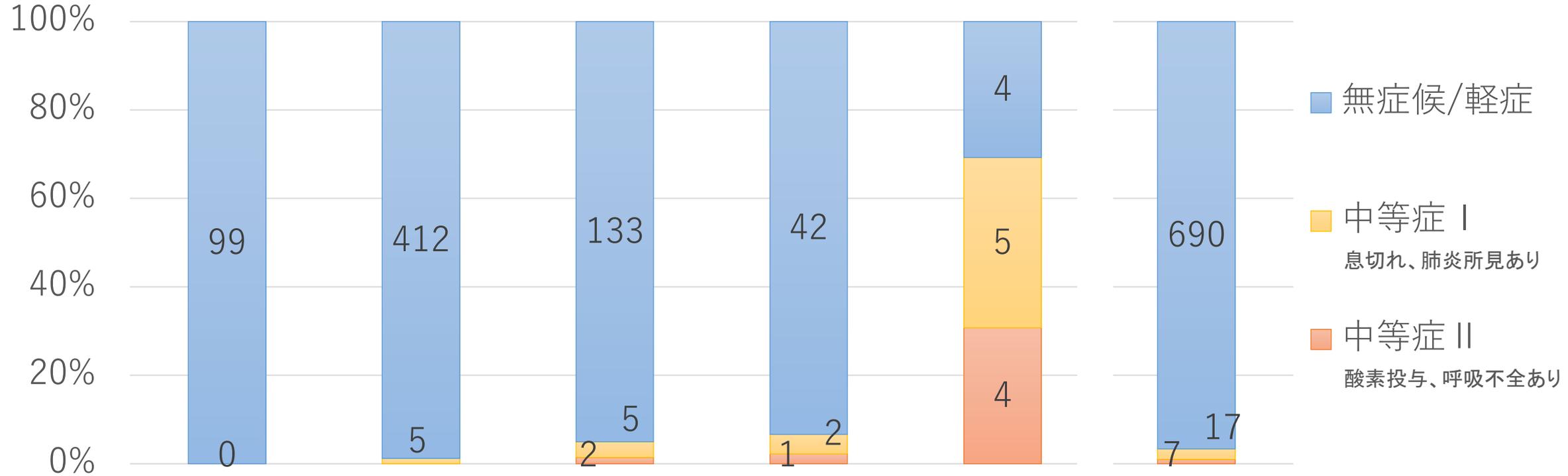
図4 全療養者の療養場所と重症度の推移（沖縄県）



発症早期には、ほとんどが軽症であるため、今後、中等症、重症が増加する可能性がある。

図5 新規陽性者における重症度（宮古・八重山医療圏 / 2023年1月）

もっとも症状が重かったときの重症度に基づく



	0-19歳	20-39歳	40-59歳	60-79歳	80歳以上	全年齢
無症候・軽症	100.0%	98.8%	95.0%	93.3%	30.8%	96.6%
中等症Ⅰ	0.0%	1.2%	3.6%	4.4%	38.5%	2.4%
中等症Ⅱ	0.0%	0.0%	1.4%	2.2%	30.8%	1.0%
重症	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

発症早期には、ほとんどが軽症であるため、今後、中等症、重症が増加する可能性がある。

図6 急速な感染拡大におけるメッセージ（沖縄県）

若者へのメッセージ

- ・ 感染しても症状は軽く、自宅療養で軽快します。
- ・ 体調が悪い、不安が強いときは、電話をかけて受診してください。
- ・ 周囲の人に感染を広げないように、協力してください。

県民へのメッセージ

- ・ 軽症の方は、市販の医療用キットを積極的に活用してください。
- ・ ただし、無症状の方は、民間の検査所でPCR検査を受けましょう。
- ・ 検査結果によらず、症状があるなら休める社会にしましょう。

（陰性証明を求めて救急外来を受診しないでください）

図7 新規陽性者への対応と医療提供の流れ (沖縄県)

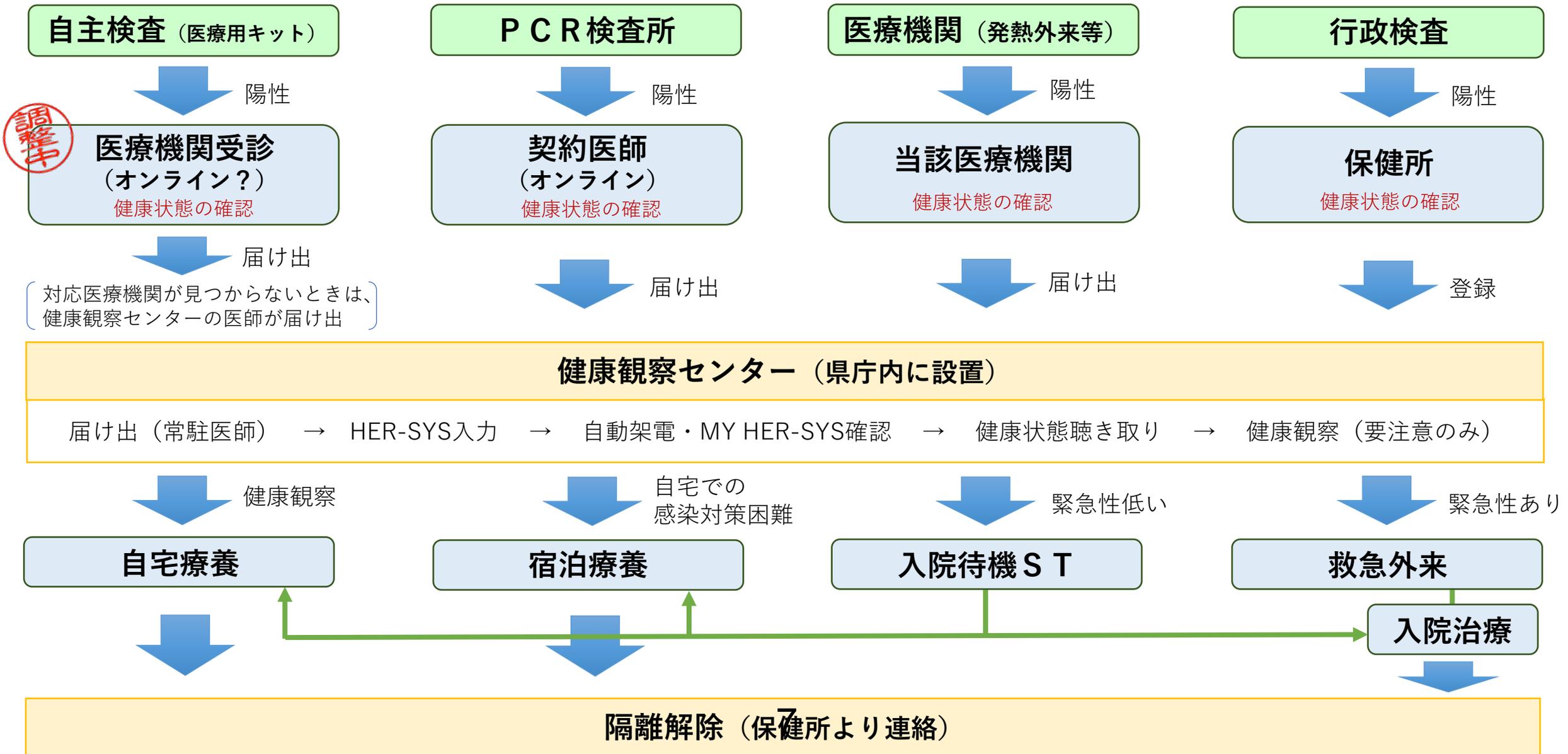


図8 重点医療機関における医師、看護師の休職数

沖縄県では、医療供給体制を維持するため、濃厚接触者となった医療従事者のうち、無症状の場合には、毎日業務前にPCR検査または抗原定性検査で陰性を確認することで就労が可能となることを各医療機関に伝えている。

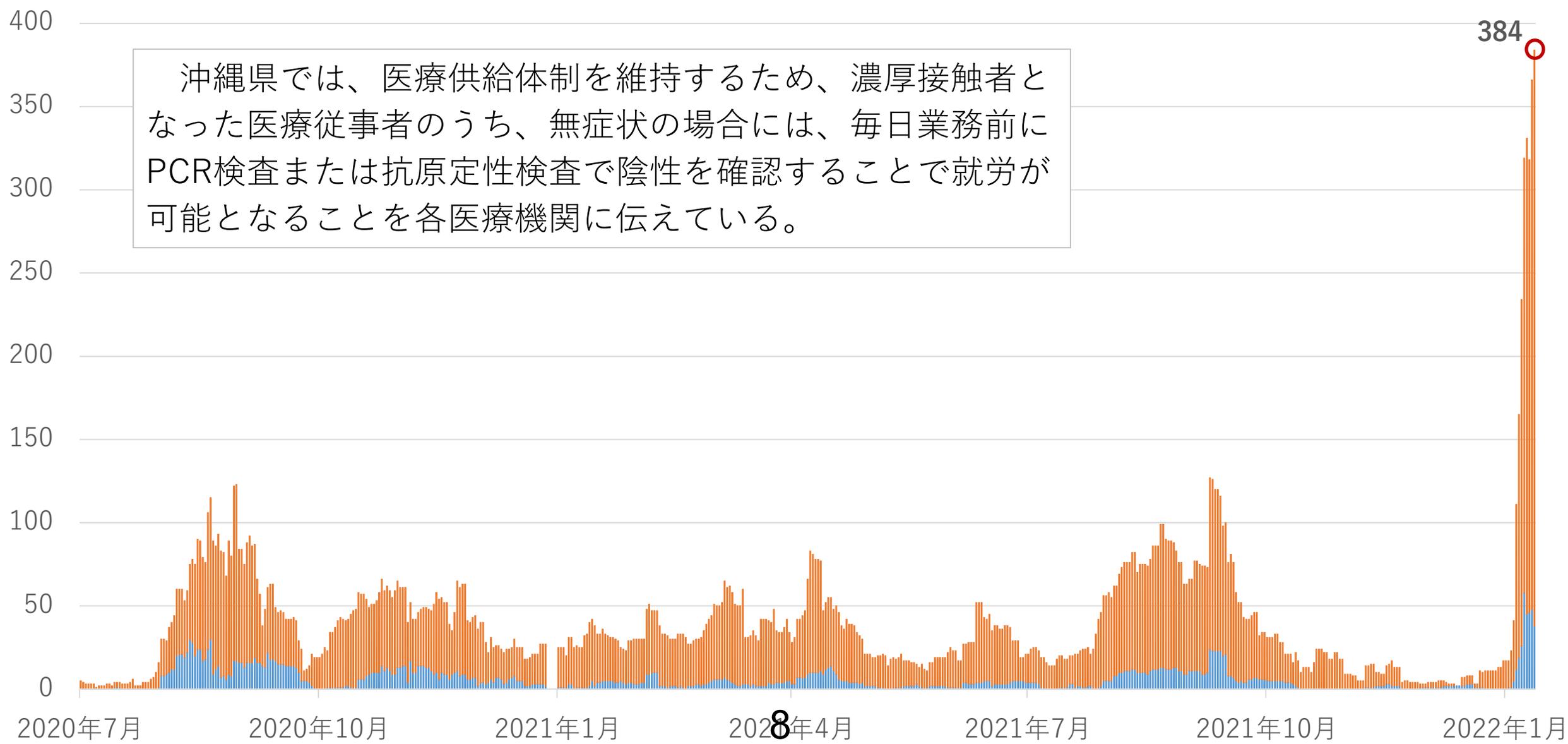


図9 感染源の発症日または明らかな曝露イベントから濃厚接触者が発症するまでの日数の分布（沖縄県）

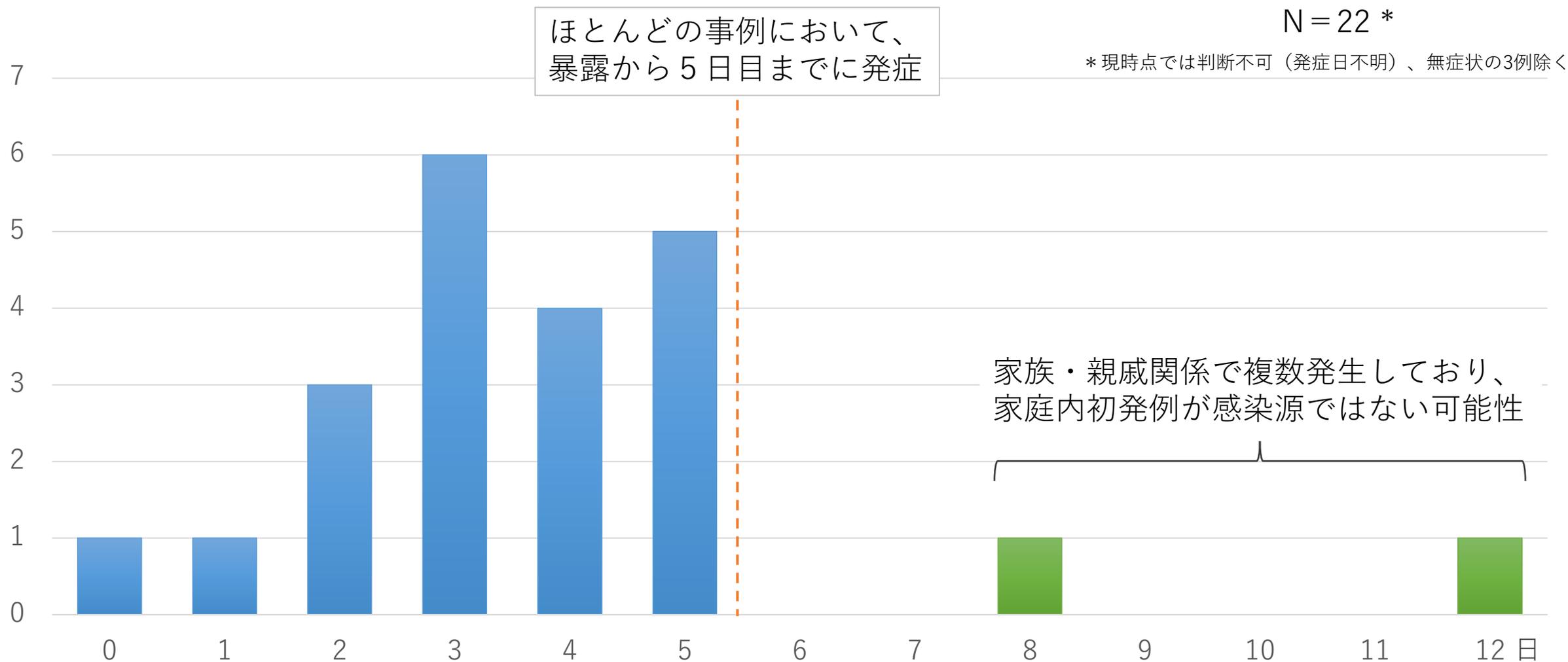


図10 急速な医療需要の増加への対応策（沖縄県）

- 沖縄県では、感染者数が増大してきたときは、中等症以上の治療を優先させるため、就業制限（隔離）解除前であっても、入院患者の早期の転院調整もしくは自宅退院を行っている。こうした対応は第5波の段階から行ってきた。
- ただし、退院時の搬送体制を確認するとともに、療養先の感染対策ができるかを退院調整時に確認することが必要である。また、入院勧告解除後の生活についても患者の状態や活動性を踏まえつつ、適切な指導が求められる。
- 高齢者施設などで隔離を続ける場合には、感染症専門家が実地で指導することも検討する（ただし、発生時に指導が入っていることが多い）。リスクが高いと判断した場合には、無理に退院させないこと。
- 病原性が低下していたとしても、感染者数が過大となれば中等症以上の患者数が増加し、病床が確保できなくなる可能性がある。軽快した患者の入院勧告解除を可能とする現場での合意形成と、それをサポートする行政が求められる。